



母子支援の活動報告と 今後の課題

(社) 山梨県助産師会 会長
小島 由美

助産師会の紹介

- 1 歴史は85年以上
- 2 会員の所属はさまざま・・・
 - ①開業（分娩、訪問ケア、妊産婦教育）
「〇〇助産所（院）」
 - ②市町村との委託で、訪問ケアや妊産婦教育、健診
 - ③病院またはクリニック勤務

山梨県助産師会の活動理念

日本助産師会の理念に基づき事業を実施。

「山梨県内の妊娠・出産・子育てに関わる女性と家族に、安心して生活し健康を維持管理できるように専門的なケアや健康教育・相談事業を提供し、広く地域に貢献することを目的とする」

主な活動内容の紹介

1 電話相談

2 おたすけ訪問助産師

3 孫育て講座

1 電話相談

- ①平成15年からスタート
- ②山梨県の電話相談事業「かるがも」内で実施
- ③毎週木曜日 10時から16時
- ④PRの方法は、チラシの配布
(市町村、病院・クリニック、会員)

相談件数

平成23年度

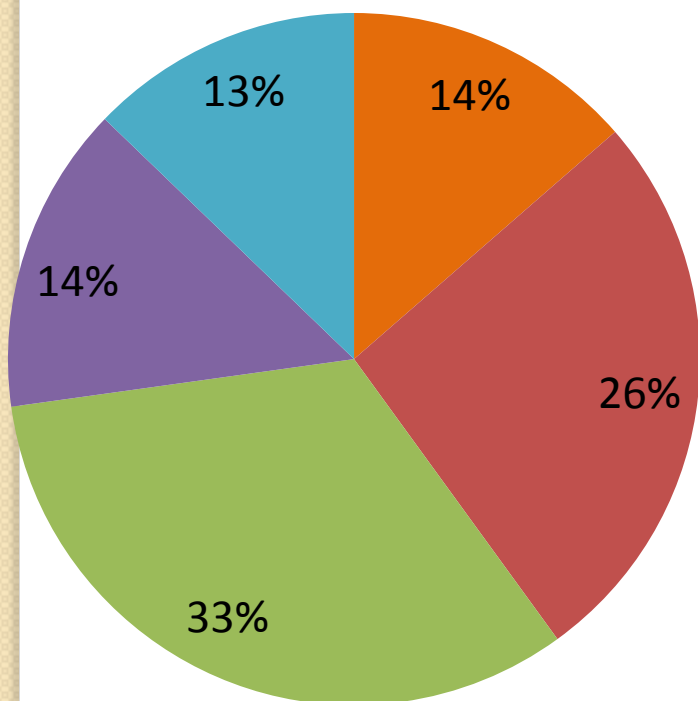
117件/年

平成24年度

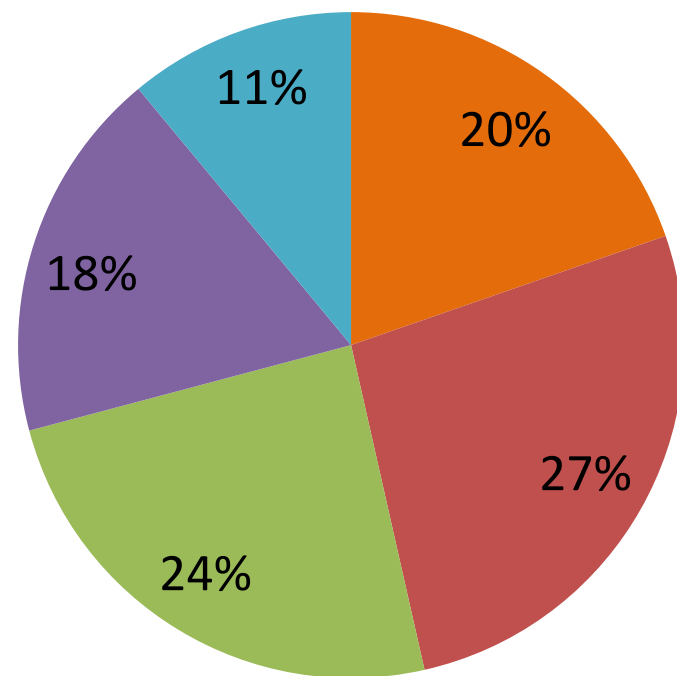
121件/年

相談の対象と時期

平成23年度



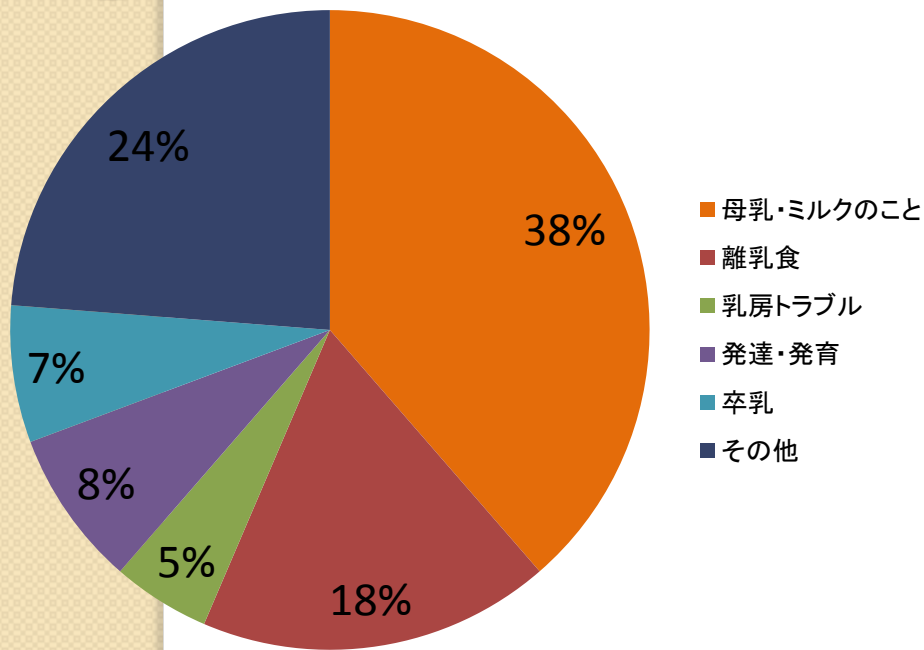
平成24年度



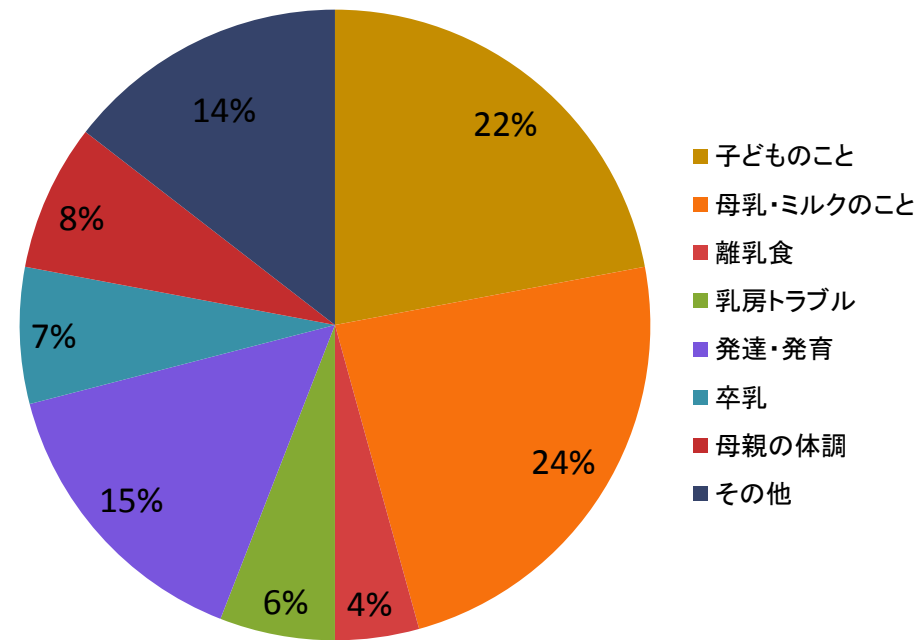
- 0~1か月
- 2~4か月
- 5~11か月
- 1歳以上
- 母親のこと

相談内容

平成23年度



平成24年度



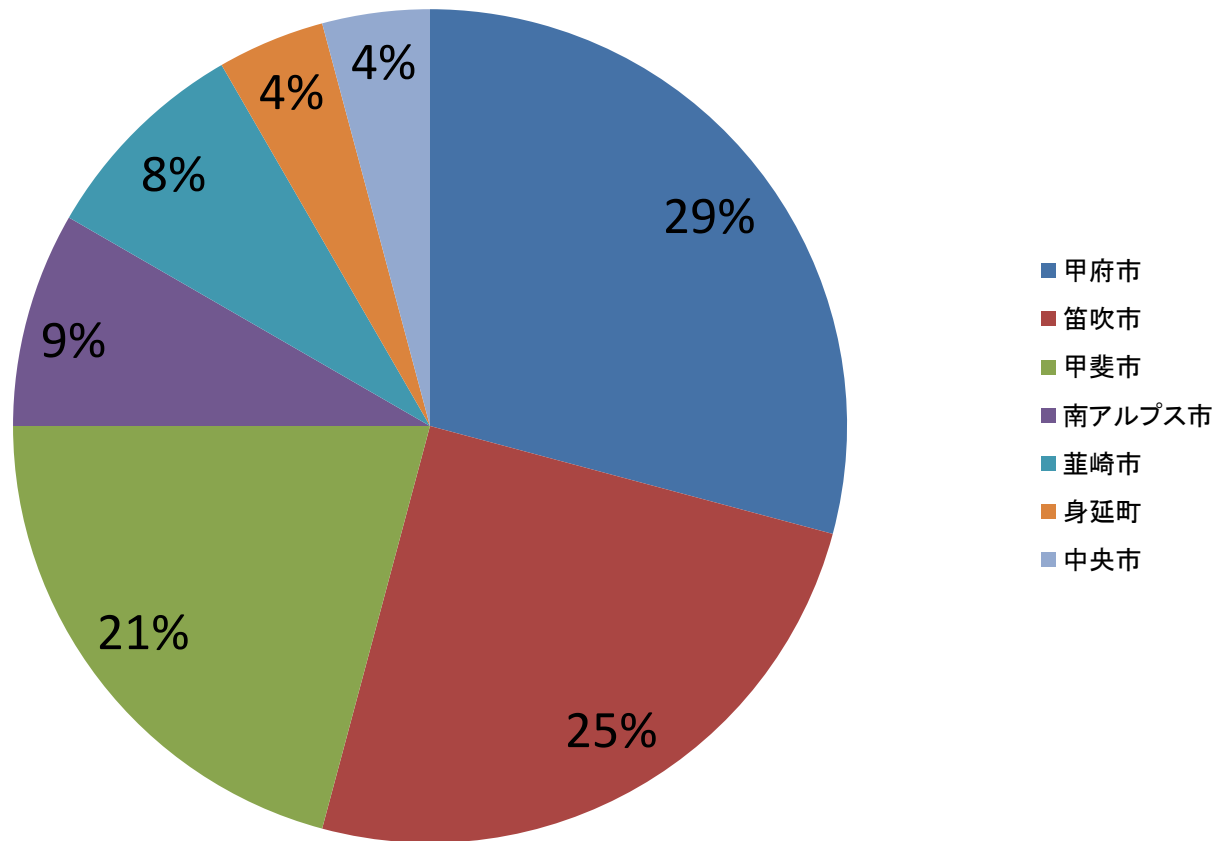
電話相談の様子から

- ①電話相談の開始に合わせて、相談がくることがとても多い反面、終了ギリギリで悩んだ末にかけてくる方も多い。
- ②電話の向こうで、本人が泣きながら不安を訴えることもある。
- ③継続的な関わりが必要なケースには、地域と連携している。

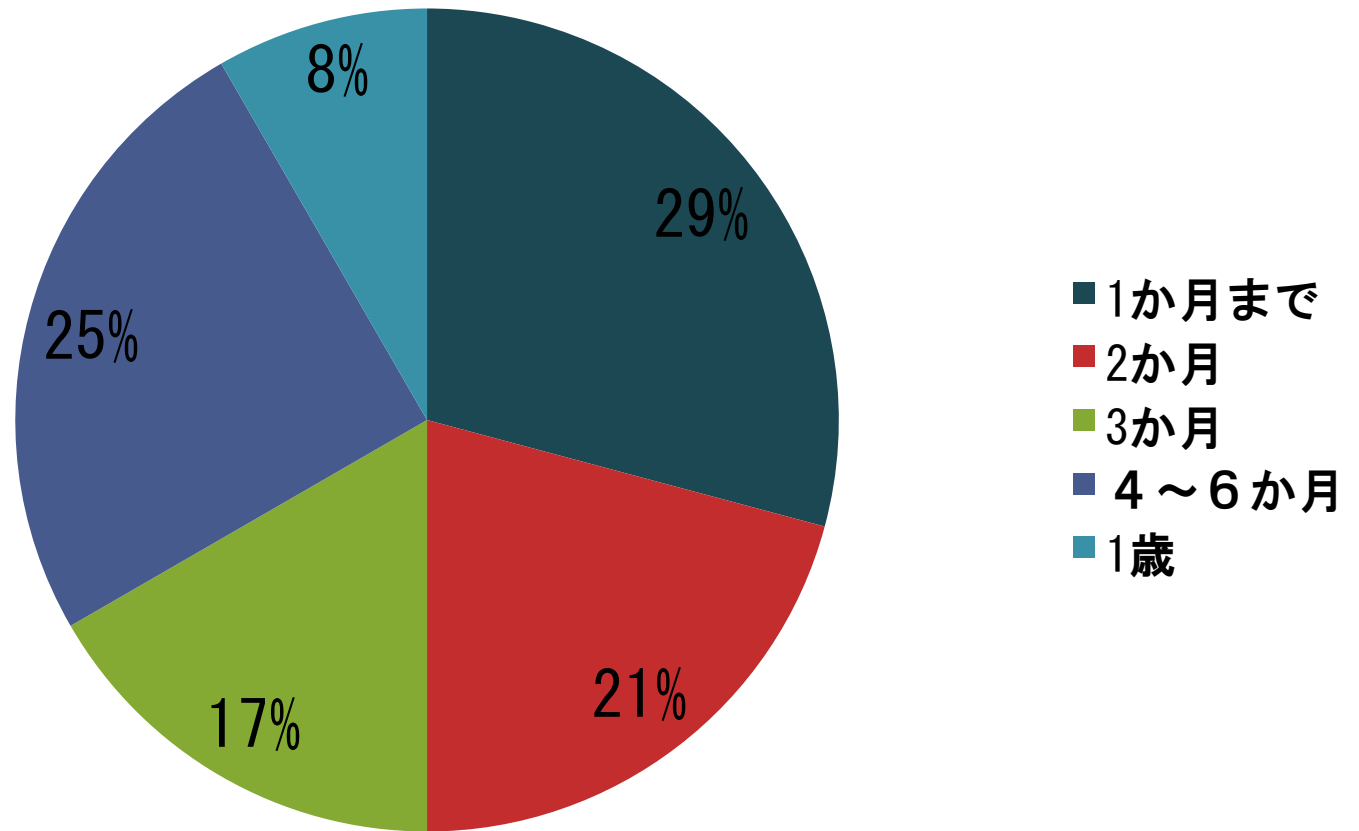
2 おたすけ訪問助産師

- ①平成17年からスタート
「産後すぐに支援が必要な方に・・・」
- ②産後すぐの支援として・・・
里帰り等で支援が受けられない方
支援を何度も必要としている方
- ③県の各エリアで登録した会員が実施
→依頼当日か翌日には訪問実施
- ④地域との連携①H17年からスタート

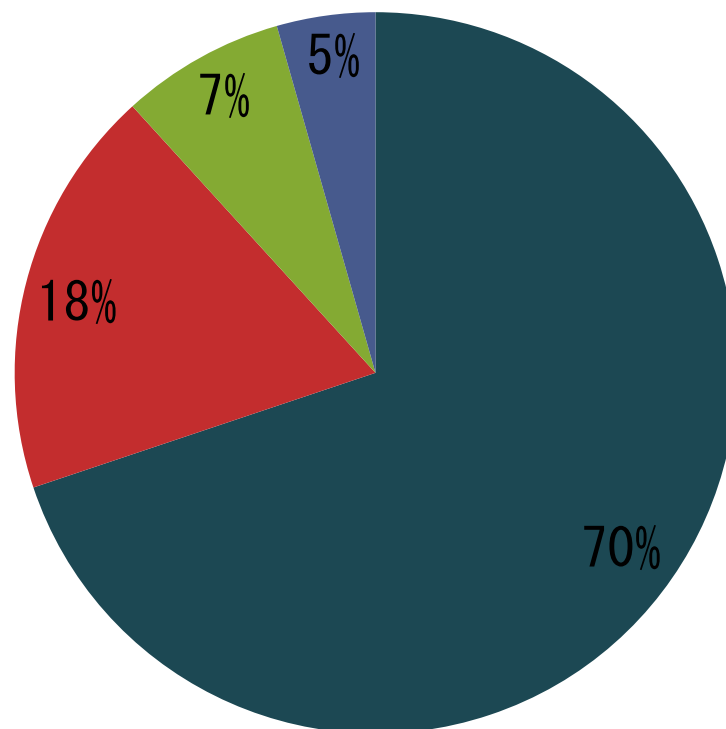
平成23年利用状況



依頼月齢



依頼内容



- 母乳トラブル
- 母乳不足感
- 断乳
- 体重測定

訪問ケースより

- ① 実家で子育てしているが、母親も祖母も不安や緊張がとても強い
- ② 不妊治療で出産、義祖母は病気がち
- ③ 自宅から遠方の病院に児が入院

3 孫育て講座

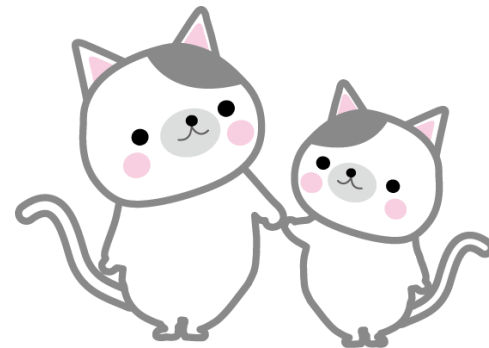
始まったきっかけは・・・

日本助産師会への

おばあちゃんからの相談の増加だった

日本助産師会での開催

その後 各県でスタート



概要

- 1 平成23年からスタート
- 2 2～3回/年 実施
- 3 笛吹市・昭和町での委託事業

開催状況

平成23年度

- | | |
|--------|-----|
| ①昭和町 | 20名 |
| ②富士吉田市 | 12名 |
| ③笛吹市 | 17名 |

平成24年度

- | | |
|------|-----|
| ①甲府市 | 20名 |
| ②笛吹市 | 15名 |

講座の内容のポイント

- ①子育ての主体は、パパとママ
- ②祖父母は縁の下の力持ち
- ③子育て今昔

孫育て講座の様子 12/1







参加者の感想

- 「今の育て方と私たちの育て方の違いを知ることが出来て、とてもよかったです」
- 「沢山の人の孫育てを聞いて、これからの孫育てに生かしたいです」
- 「一番の主役はパパ、ママだということを実感しました」
- 「若い人の参加もあり、話を聞くことが出来て良かったです」

今後の課題 ①

①子育ての不安や悩みの時期、内容は個人差が大きく多岐にわたっている。



不安や悩みに対して、

〔 タイムリーに（できるだけ早く）
〔 柔軟に（方法はさまざま）

関わっていけるかが大切である

今後の課題 ②

②どこに相談していいかわからない
まま、不安を抱えたままの方も多い。



不安や悩みを長期に抱えずに

『いつでも相談できる拠点となる場所』

が明確になっていることが重要である。

今後の課題 ③

③時代の変化に伴い、母親のみだけでなく祖父母も、育児への不安を多く持っている



母親、夫、祖父母に対し、現在の生活背景や育児環境に合わせた指導をしていくことにより、それぞれの役割を効果的に発揮できるようになると思われる。